



第30号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所
 靈亀山 九島 禅院
 〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住職 奥田 啓知(智證)

脳死と仏教(一)

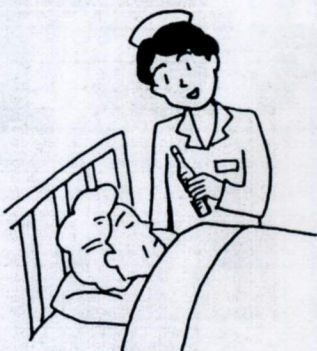
臓器移植法改訂を控えて

臓器移植法の成立を受けて、高知赤十字病院に引き続き、慶応大病院でも二例目の脳死移植が実施されました。国民の移植医療に対する理解が深まりつつあります。総理府が昨年十月に実施した世論調査では、自分が脳死状態と判定された後、臓器を提供したいと思う人は三割余りでしたが、意思表示カードを持つ人が増え、配布枚数は三千七百万枚を越えたそうです。

平成九年に成立した臓器移植法では、宗教界や法曹界からの強い批判と抗議を受けて、事前に文書をもって臓器提供の意思表示を行った人に限って脳死を認め、かつ家族の同意のある場合のみ臓器摘出ができることとされています。脳死の判定基準も「脳死に関する研究班」がまとめた厳格な判定基準を適用することです。

脳が十分な働きをしなくなっただけのことで、かりに脳が死んだとしても、人間は生きています。脳死の母親から赤ん坊が生まれたとの報告さえあるのです。無脳症(生まれつき脳のない子)の子は、人間ではないのでしょうか。臓器移植には新鮮な臓器が必要だからという理由で、脳死患者を死んだことにしないで殺しても、殺人罪には問われないようにしたのが、臓器移植法なのです。

仏教では、仏法(仏教の教え)という彼岸原理にたつて考えなければなりません。それは、貪欲(どんよく)になるなどいうことです。臓器移植しか助かる道のない患者さんやご家族には、無慈悲な言い方もしなければ、新鮮な臓器を移植してほしいと願うのは、本質的には貪欲なのです。



ひそめたのは私のみではないと思います。まるで、死にかかっている死体の上空で、その死を待つハゲタカが舞っているように映ってなりません。自分が、家族が生き残るために、脳死を死と誤魔化して、その人を殺してまで生き残ろうとする。これを貪欲といつて何と云えるのでしょうか。臓器提供の意思を表示しているとはいえず、それは健康なときに書いたもので、まさに死にかかっている脳死者が、その意思を持続しているか確認できるすべはないのです。

臓器移植法が成立している現状を認めるとして、来年の同法の見直しには、臓器提供者の家族にたいする心のケアやプライバシーの保護などを含め、提供者の善意の意思が十分に生かされるように論議をつくしてもらいたい。「一人の死」の上にも「他者の生」があるという峻厳な事実を忘れないために。

大阪にオリンピックを！
 九条に中華街を！
 二十一世紀まであと二年！

大発見

クスノキは知っている

—空襲の惨禍を伝える—

先日、西中学校の佐藤泰正先生が、五月二十三日の西区の戦争遺跡巡見の下見に来院されました。

当院に伝わる戦艦陸奥の砲身を錆なおして造った小鐘の見学と西区の空襲を記録したビデオ映画をみるためです。

境内を一巡して、境内墓地の大クスノキをしげしげと眺め、「この木のおかしいな」と首を傾げておられました。よくよく見ると、焼け焦げ枯れた幹を覆うように新しい幹が成長し、ご覧のような大樹となり、枝葉を繁らせているのです。

あのクスノキは、おそらく戦災の空襲で当院が被災した際、きつと燃えたにちがいない。お墓も空襲の大火で皮が剥けたようにもろくなった墓碑が点在するところからも、この木だけが無事であったことは考えられないから。

戦前、当院の前に光泉寺という真宗本派の寺院があり、

同寺の大クスノキと当院のクスノキが枝葉を繁らせ、門前の道（神輿道）に垂れ下がりが夕景などには通行が怖かったと口伝されていきました。空襲でそのクスノキも被災したことは容易に推察されます。

すると、空襲で燃えてしまったが、地中の根が生きており、その後新しい幹を育て、立ち枯れた旧幹を被い包むように大樹に成長したのではないか。戦争の空襲という惨禍を今に伝える生き証人として、私達に「命の大切さ」を語ってやまないのではないかと思えてなりません。

先々代の榮志和尚が大正元年より記した當院記録があります。戦災に関しては次の様な記載があります。

昭和二十年六月一日戦災ノ為メ堂宇全焼ス

全六月二十六日門前爆弾落下為メ表高塚山門等崩壊ス

全九月十七日夜颱風高潮浸水境内地ニ於テ約三尺以上ノ浸水ス

やがて廻って来る終戦記念日には、祖国防衛のため命をおとされた英霊や戦争の惨禍に散っていった多くの御霊に憶いをよせ、彼らの精神がクスノキの根っこのように、朽ちずに新しい息吹となつて私たちの生活を支えてくださっているのだと感謝を忘れずにいたいものです。



漢詩の会ご案内

毎月第4火曜日
午後7時～9時
場所 龍燈会館1階多目的ホール
漢詩指導 鳴鳴吟社主宰 森崎蘭外先生
会費 三千元

※少人数で漢詩創作までご指導して頂けます

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀まであと一年!



○坐禅会休会にします

平成六年一月より続けてきました宗統円通禅会は、当分の間休会とします。ご指導いただきま

す。黄葉山塔頭萬松院の奥田仁芳老師が、四大不調で同院住職を退任され、故郷

滋賀県日野町にあるご自坊の浄光寺に静養されたためです。機会をみて坐禅会は再開します。

○遺偈碑建立しました

五月十日、本堂前にご開山龍溪禪師の遺偈碑を建立しま

二十一世紀にはいる平成十二年は「開山龍溪禪師御水定三百三十年です！」

タイガース優勝願って寄席

西区九条の商店主らでつくる町おこしグループ「二十一世紀の九条を語る会」などは十九日夜、今シーズン好調なプロ野球阪神タイガースの優勝を願って「第五回タイガース寄席」を開く。当日は東京ドームで巨人ー阪神戦が予定され、大型スクリーンで観戦しながら、落語家が阪神を応援する小話を披露する。タイガース優勝とともに、阪神電鉄西大阪線西九条ー難波間の延伸計画の実現を目指し、「阪神」ファンと落語家が熱い期待を語り合う。

ゲストは、阪神を応援する落

TV観戦の合間に桂文福さんら小話

語家の桂文福さん、桂勢朝さん。まず、無宗教式で「阪神優勝祈願祭」があり、会場に設置した大型スクリーンで巨人ー阪神戦を中継。巨人攻撃になると、二人の落語家が「がんばれ、阪神タイガース」と題した小話を始める。時間は午後六時半から午後九時ごろまで。場所は西区本田三丁目九島院で、木戸銭は千円(征ビル付き)。定員六十人で、予約が必要。予約は九条を語る会(6584・6139)へ。

※朝日新聞六月八日付朝刊

その他多数報道されました。

第六回修養会のご案内

本年の修養会は、明石大橋を渡り、北淡町震災記念公園にあ長まに、野島断層保存館を見学した後、南画の大家(黄檗)の南画(俳画)を、同寺の隣接する玉青館には、師の直原玉青師の「龍びと新ま」が、この六年間の「由良のハモ」で有名なる旅を、思い食通は「由良のハモ」で有名なる旅を、鮮な海鮮料理を頂きます。今回は余裕気分の上で、お誘いの上ご参加下さい。

募 集 要 項

- 日時 11月3日(水)文化の日 8時半集合
 - 集合場所 九島院より貸し切りバスに乘車
 - 旅程 九島院ー明石大橋ー野島断層保存館ー由良で昼食ー国清寺・玉青館ー九島院(4時半頃解散)
 - 会費 1万円(食事・拝観料込み 当日徴収)
 - 募集人員 40名(満員になり次第締め切り)
- ※先着順です。申し込みは、当院(☎06-6583-2725)まで。出発当日の半月前に確認書をご郵送します。

した。「三十年前恨未消・(云々)」と遺偈(遺言を漢詩にしたもの)を禪師のご揮毫された真筆を拡大したものです。来年の没後三百三十年記念事業の一環として建立しました。製作中の慶讃ビデオと龍溪禪師語録の記念出版のなかに、遺偈にたくされた禪師の憶いを解説します。

○タイガース寄席大盛況

五月十九日夜「新生 野村阪神」優勝を祈願して、第五回タイガース寄席が開催されました(左記の予告新聞記事)当日は報道関係者も駆けつけ、落語家の桂文福・勢朝師匠の愉快な小話に「今年の優勝を今日祝う!」一夜でした。(予定稿)

奉 納 抄

永代供養冥加金金式百万円奉納
(平成十一年四月十八日)

本年一月六日にご逝去された、故岩倉孝子様(徳室孝仁信女)の追善供養にと、兄岩倉一男様より永代供養冥加金として金式百萬円が奉納されました。岩倉孝子様のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

▼野村阪神タイガースが好調です。シーズン前半とはいえ、誰もが予想できなかったことです。大不況下で沈みがちな世相に一筋の光明をみる思いです。
▼サッチー騒動が、好調に影を落とさないように願っているのは小生だけではないはず。
▼五月十四日、港区市岡婦人会の依頼で「美しく歳をとるために」と題して講演をしました。

▼介護保険制度がスタートするそうです。現今の不況下、今時の老人はそれでも結構といわざるを得ません。小子化のなれのなかで、これからの若者は、ますます住みにくい世の中になってきています。
▼「どうして老後のことを心配するの、老後があるかどうかかわからないのに！」(無名人語録 永六輔著)との言葉のように、今を大切に、充実した毎日を送りたいものです。
墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折、郵便為替でも結構です。

● ワンダフルライフ

「あなたは昨日、お亡くなりになりました。あなたの人生から大切な思い出をひとつだけ選んでください」先日、愚妻と観た映画の台詞(せりふ)です。映画「ワンダフルライフ」(是枝裕和監督)は、死者が天国へ行くまでの七日間の物語。この世とあの世の間にある施設で、面接官にこう言われます。そして、死者たちは、自分の人生を振り返り、悩み後悔し、思い出に浸ります。思い出を選ぶ猶予は三日間。人々はその中で働く職員の誘導のもと、戦争中のご事情、少女時代の思い出、大好きだった人と過ごした時間など、それぞれに過ごした人生をふりかえります。死者たちが選んだ、かけがえのない思い出は、残りの三日間に職員たちの手で映像化され、最終日に上映されます。その思い出を胸に、死者たちは天国へ旅立っていきます。

不思議な味わいのある映画でした。映画には、五た百人の一般の人に「ひとつだけ思い出を選ぶとしたら、かかれた十人が本人として映画に登場、プロの俳優のフィクションの思い出を交え進んでいきます。

生きて以上、思い出は積み重なっていきます。良いこと、悪いこと、かなしいこと、幸せなこと。ひとつだけ思い出を選ぶことは難しいこと。そうした思い出も、年をとるにつれ、物忘れがひどくなり、記憶の彼方に消えていきます。アルツハイマーの患者は、馴染みの場所や家族の顔すら忘れてしまうのです。とても悲しく残酷なことです。

この映画を観て、思い出がいかにか人のこころを癒す力になるのか、あらためて考えさせられました。

先頃亡くなったコメディアン由利徹が出演していましたが、彼ならどのような思い出を語るのか憶いられません。



『ワンダフルライフ』

ご 案 内 水 灯 会 ・ う ら ぼ ん 施 餓 鬼

8月19日(木) 午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません。ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

二十一世紀にはいる平成十二年は、開山龍溪禪師御水定三百三十年です！